

VVAULT[®] インストールマニュアル

Install Manual for VVAULT 9.5

1	インストール前の確認	5
2	インストール	13
3	管理コンソールへのアクセス	27
4	画面の構成	33
5	アンインストール	37

はじめに

本文書のご利用にあたって

- 本文書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き禁止されています。
- 本文書で使用している情報及び画像は本文書執筆時点のもので、最新版の製品および製品サイトと文言やデザイン等が異なる場合があります。
- 本文書内の社名、製品名は各社の商標又は登録商標です。

目次

1	インストール前の確認	5
1-1	動作環境の確認	6
1-2	VVAULTのダウンロード	7
1-3	使用するデータの保存先	8
1-4	インスタンスと稼働モード	10
2	インストール	13
2-1	新規インストールの手順	14
2-2	製品アップデートの手順	19
2-3	機能の追加インストールの手順	21
2-4	復元インストールの手順	23
3	管理コンソールへのアクセス	27
3-1	管理コンソールの起動	28
3-2	有効なアカウント名の確認	30
3-3	ログインとログアウト	31
4	画面の構成	33
4-1	基本構成と各部の役割	34
5	アンインストール	37
5-1	アンインストールの手順	38

1 インストール前の確認

Install Manual for VVAULT 9.5

1-1 動作環境の確認	6
1-2 VVAULTのダウンロード	7
1-3 使用するデータの保存先	8
1-4 インスタンスと稼働モード	10

1-1

動作環境の確認

CPU	Intel x86 / x64 互換プロセッサ (6コア / 6スレッド以上推奨)
対応OS	<p>SERVER OS Windows Server 2022 (64bit) ※1 Windows Server 2019 (64bit) ※1 Windows Server 2016 (64bit) ※1 Windows Storage Server 2016 (64bit) ※1</p> <p>PC OS Windows 10 (64bit)</p> <p>※1 ReFS形式でフォーマットされたストレージにVVAULTをインストールすることはできません。構成ストレージとして追加することは可能です。</p> <p>※ Windows Server IoT 2022 for Storage / Windows Server IoT 2019 for Storage 搭載のサーバやNASは、CPU、メモリ、ディスク容量などが、本製品の動作要件を満たさないものもございますので、ご注意ください (2023年8月現在)。</p>
メモリ	8GB以上 (16GB以上推奨)
ディスク容量	<p>600MB以上の空き容量</p> <p>※使用するコンテンツ数によって必要容量が増減します。詳しくは「1-3 使用するデータの保存先 (P.8)」を参照してください。</p>
必要ソフトウェア	<p>Microsoft .NET Framework 4.5 以降 ウェブブラウザ※</p> <p>※Internet Explorer 11の互換モードでのご利用はサポート対象外となりますのでご注意ください。</p>
対応環境	ドメイン (ドメインコントローラ、ドメインメンバ) ワークグループ
接続対応クラウドストレージ	<p>Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) (アマゾンデータサービスジャパン株式会社) Google Cloud Storage (Google Inc.) Wasabi オブジェクトストレージ (Wasabi Technologies Inc.)</p>
制限事項	<p>本製品を使ってマウントした仮想ドライブは、Windows 標準機能である下記に現時点では対応しておりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドライブの圧縮 ・ドライブの暗号化 ・VSS (Volume Shadow Copy Service) *1 ・クォータ *2 ・代替データストリーム (ADS) ・ReadyBoost <p>*1…VVAULT独自のライブバックアップ/レプリケーション/HA機能をご利用ください。 *2…VVAULT独自のフォルダクォータ機能をご利用ください。</p> <p>本製品ではバージョンのダウングレードには対応しておりません。</p>

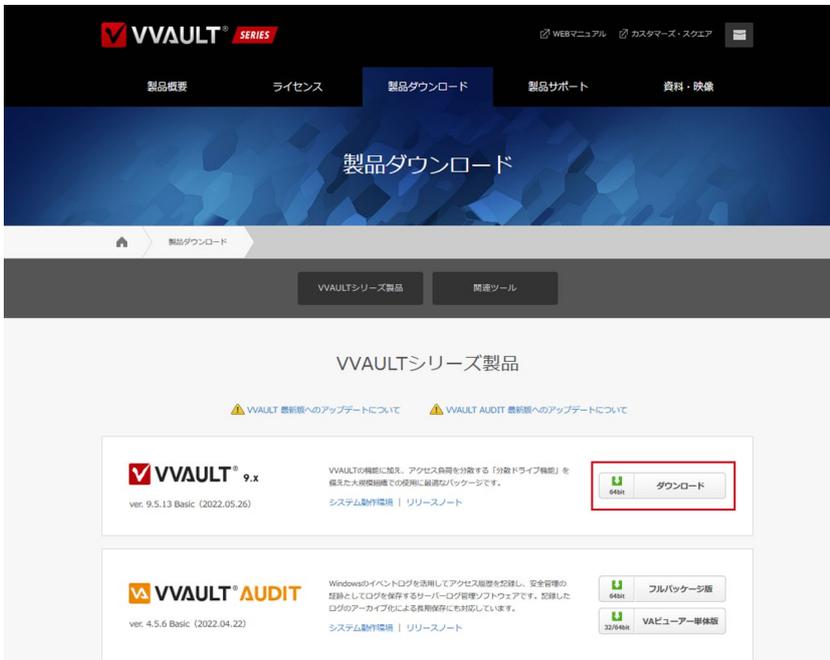
🔍 セキュリティ対策ソフトウェアとの併用について

セキュリティ対策ソフトウェアが構成ストレージの実データを直接隔離、または除去した場合、マスタドライブの状態と不整合が生じ、正常な運用に支障をきたします。セキュリティ対策ソフトウェアを併用する場合は、VVAULTの構成ストレージをスキャン対象から除外し、マスタドライブをスキャンするようにしてください。

1-2

VVAULTのダウンロード

本製品をダウンロードするには、製品サイトの「ダウンロード」ページ (<http://vvault.jp/download/>) にアクセスし、ダウンロードしてください。



! レプリケーションをご利用になる場合のご注意

スタンバイサーバー側のVVAULTとメインサーバー側のVVAULTのバージョンに差異がある場合、レプリケーションが正常に作動しなくなる可能性があります。バックアップサーバー側とクライアント側のVVAULTのバージョンを合わせるようにしてください。

1-3

使用するデータの保存先

本製品で使用する各種データは以下に記載する保存先に保存されます。尚、各種データの保存先はそれぞれ別の場所を指定することを推奨します(※ 1)。

DB データ保存先の容量監視について

データの破損やデータベースの異常停止を予防するために、DB データ保存先の空き容量が 5GB 未満になった場合に警告が通知されます。また、1GB 未満になった場合には、関連する VVAULT のサービスが停止されます。

空き容量が少なくなってきた場合には、DB データ保存先のディスクの拡張、または DB データを新しいディスクへ移行し VVAULT の復元インストールを行う必要があります。

詳しい手順については、テクニカルサポートへお問い合わせください。

■ 各種データの保存先

VVAULT プログラムファイル

VVAULT を動作するためのプログラムファイルです。インストーラーのデフォルト設定では” C:¥Program Files¥VVAULT” に保存されます。

マスタドライブ用 DB データ (※ 2)

マスタドライブに保存されているコンテンツを管理する為のメタデータです。インストーラーのデフォルト設定では” C:¥Program Files ¥VVAULT9_INSTANCE1 ¥VVAULTData” に保存されます。

マスタドライブ バックアップ用 DB データ (※ 2)

バックアップドライブに保存されているコンテンツを管理する為のメタデータです。このデータはバックアップ機能、レプリケーション機能、タイムマシーン機能を使用する場合に必要となります。インストーラーのデフォルト設定では” C:¥Program Files¥VVAULT9_INSTANCE1_BACKUP¥BACKUPData” に保存されます。

レプリケーション用 DB データ (※ 2)

レプリケーションデータを管理する為のメタデータです。このデータはレプリカモードで使用する場合に必要となります。インストーラーのデフォルト設定では” C: ¥Program Files ¥VVAULT9_INSTANCE2 ¥DRData” に保存されます。

レプリケーション バックアップ用 DB データ (※ 2)

バックアップドライブに保存されているコンテンツを管理する為のメタデータです。このデータはバックアップ機能、レプリケーション機能、タイムマシーン機能を使用する場合に必要となります。インストーラーのデフォルト設定では” C:¥ProgramFiles¥VVAULT9_INSTANCE2_BACKUP ¥DRBackupData” に保存されます。

実データ

マスタドライブに保存されたファイルの実データは、マスタドライブを構成するストレージ（以下、構成ストレージ）に保存されます（※ 3）。尚、構成ストレージには以下の種類があります。

- ・ マスタドライブ用構成ストレージ ……マスタドライブを構成するストレージです。
- ・ バックアップドライブ用構成ストレージ …… バックアップドライブを構成するストレージです。
- ・ レプリケーション用構成ストレージ …… レプリカドライブを構成するストレージです。

- ※ 1: 各メタデータの保存先はそれぞれ別の場所を指定することを推奨しますが、ストレージのルートやネットワークストレージを指定することはできません。
- ※ 2: 各DBデータの容量は保存されるデータ量によって増減します。状況に応じて適切な空き容量を確保してください。目安として、DBデータ保存先別に100万コンテンツで6GB程度の容量が必要となります。
- ※ 3: 構成ストレージは、本製品をインストールするコンピューターからアクセス可能なストレージである必要があります。本製品をインストールする前にこれらのストレージに問題なくアクセスできることをご確認ください。

1-4

インスタンスと稼働モード

■ インスタンスとは

VVAULTのインスタンスとは、仮想ドライブシステムのまとまりのことを表し、仮想ドライブをマウントする単位となります。つまり、インスタンスが2つ使用可能な場合、マウントできる仮想ドライブも2つとなります。また、各インスタンスはそれぞれマスタモードとレプリカモードのいずれかの稼働モードで運用することが可能です。

■ 稼働モードとは

稼働モードにはマスタモードとレプリカモードの2種類のモードがあり、インスタンス毎に設定できます。マスタモードは主に使用する仮想ドライブ（マスタドライブ）をマウントするモードで、レプリケーション時のクライアントとなります。レプリカモードはレプリケーション時のサーバー側となるモードで、クライアントからのレプリケーションデータを蓄積します。

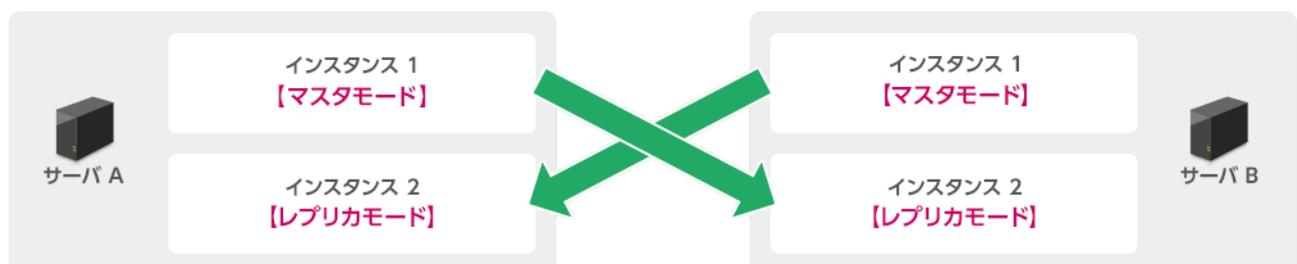


■ マルチインスタンスによるメリット

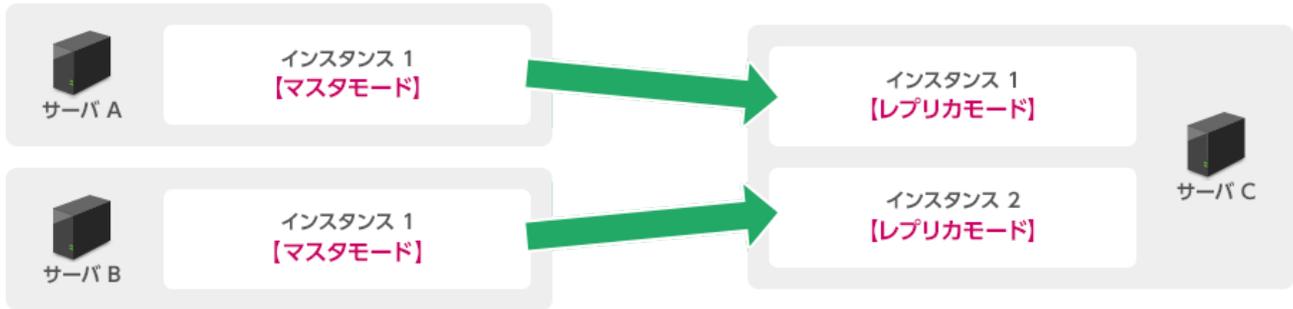
VVAULT 5.0.0以降のバージョンでは、1台につき2つのインスタンスをご利用いただけるようになります。各インスタンスは独立しており、それぞれマスタモード、もしくはレプリカモードのいずれかで運用することができます。マスタモードではマスタドライブを、レプリカモードではレプリカドライブ（読み取り専用）をマウントすることができ、両インスタンスをマスタモードにすることで、1台のサーバで2つの仮想ドライブを運用することも可能になります。

また、2つのインスタンスを活用することにより、クロスや2：1でのレプリケーション環境を構築できる為、より柔軟に万全のデータ保護環境を構築することが可能となります。

構成例1 クロスレプリケーション



構成例2 2:1 レプリケーション



2 インストール

Install Manual for VVAULT 9.5

2-1 新規インストールの手順	14
2-2 製品アップデートの手順	19
2-3 機能の追加インストールの手順	21
2-4 復元インストールの手順	23

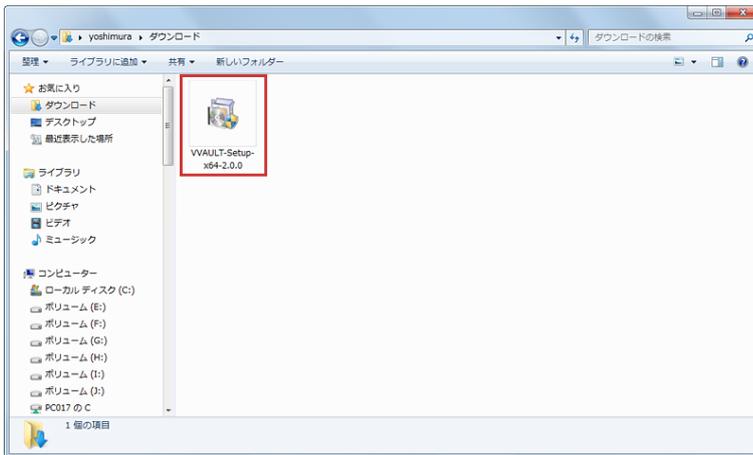
2-1

新規インストールの手順

本製品のインストーラーを製品サイト (<http://vvault.jp/download/>) からダウンロードし、実行してください。
本製品のダウンロードについての詳しい方法は「1-2 VVAULTのダウンロード(P.7)」をご覧ください。

手順解説

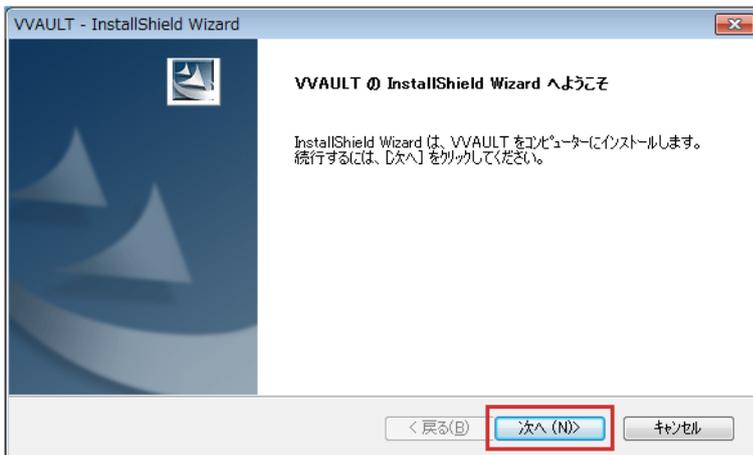
- ① 本製品の最新版のインストーラーを実行します。



⚠️ ご注意

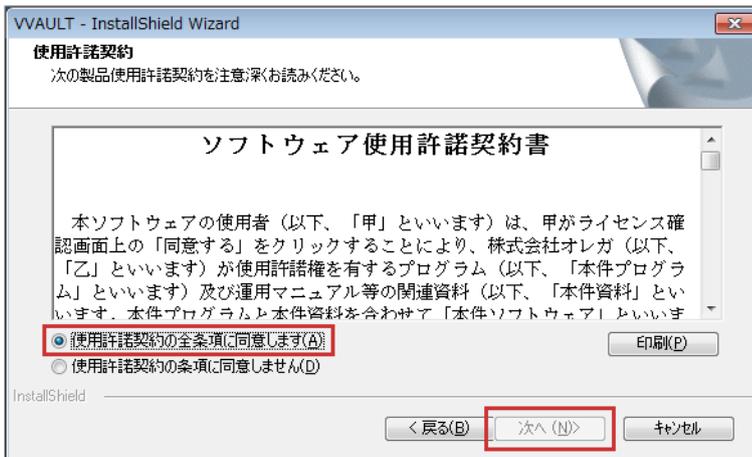
UACが有効の場合、インストーラは管理者として実行する必要があります。
またドメインメンバーのコンピューターにインストールする場合は、ローカルの管理者アカウントでログインしてから実行してください。

- ② インストーラーのウィザード開始画面にて [次へ] ボタンをクリックします。



手順解説

- ③ 使用許諾契約を確認後、[使用許諾契約の全条項に同意します (A)] を選択し [次へ] ボタンをクリックします。



- ④ インストールする機能を選択し [次へ] ボタンをクリックします。



ワンポイント

インスタンス1

デフォルトの稼働モードは、マスタモードです。基本機能をインストールするインスタンスです。

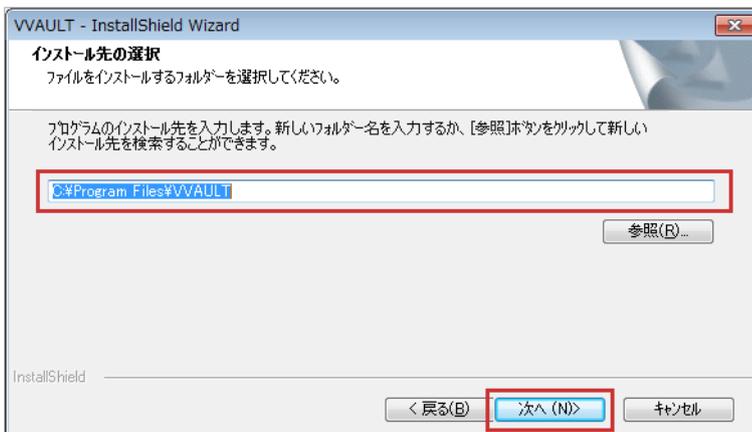
インスタンス2

デフォルトの稼働モードは、レプリカモードです。マルチインスタンスで稼働させたい場合にインストールしてください。詳しくは「1-4 インスタンスと稼働モード(P.10)」をご覧ください。

バックアップ

データをバックアップおよびリカバリする機能をインストールします。

- ⑤ プログラムのインストール先を指定し [次へ] ボタンをクリックします。

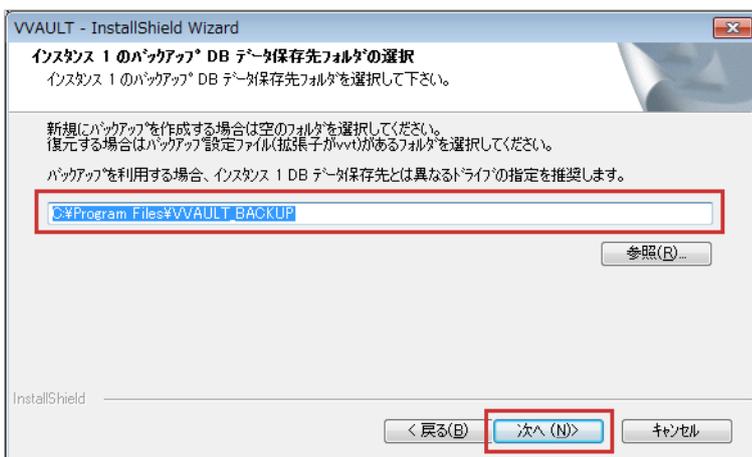


手順解説

- ⑥ インスタンス1 (マスタモード) 用DBデータの保存先を指定し [次へ] ボタンをクリックします。



- ⑦ インスタンス1のバックアップ用DBデータの保存先を指定し [次へ] ボタンをクリックします。



- ⑧ インスタンス2もインストールする場合は、インスタンス2用DBデータの保存先を指定し「次へ」ボタンをクリックします。



ワンポイント

DBデータは使用するコンテンツ数によってサイズが増減します。詳しくは「1-3 使用するデータの保存先(P.8)」をご覧ください。

過去に利用していたDBデータを指定し、再利用することも可能です。

ワンポイント

DBデータは使用するコンテンツ数によってサイズが増減します。詳しくは「2-3 機能の追加インストールの手順(P.21)」を参照してください。

過去に利用していたDBデータを指定し、再利用することも可能です。

⚠️ ご注意

バックアップを併用する場合は [インスタンス1用DB] の保存先とは別のドライブを選択してください。レプリケーション機能のみをご利用の場合は変更する必要はありません。

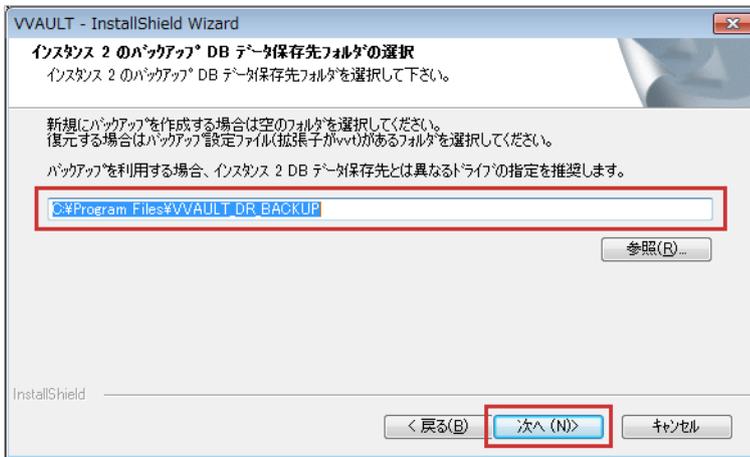
ワンポイント

DBデータは使用するコンテンツ数によってサイズが増減します。詳しくは「1-3 使用するデータの保存先(P.8)」をご覧ください。

過去に利用していたDBデータを指定し、再利用することも可能です。

手順解説

- ⑨ インスタンス2のバックアップ用DBデータの保存先を指定し [次へ] ボタンをクリックします。



ワンポイント

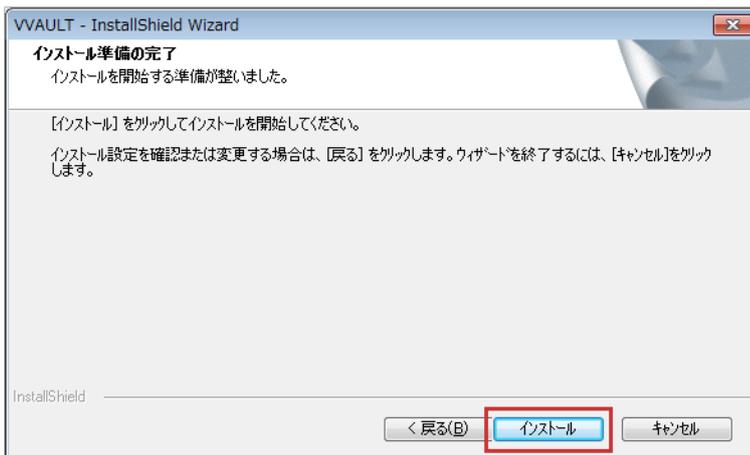
DB データは使用するコンテンツ数によってサイズが増減します。詳しくは「1-3 使用するデータの保存先(P.8)」をご覧ください。

過去に利用していたDBデータを指定し、再利用することも可能です。

⚠️ ご注意

バックアップを併用する場合は [インスタンス 2 用 DB] の保存先とは別のドライブを選択してください。

- ⑩ [インストール] ボタンをクリックします。



- ⑪ インストールが開始されます。

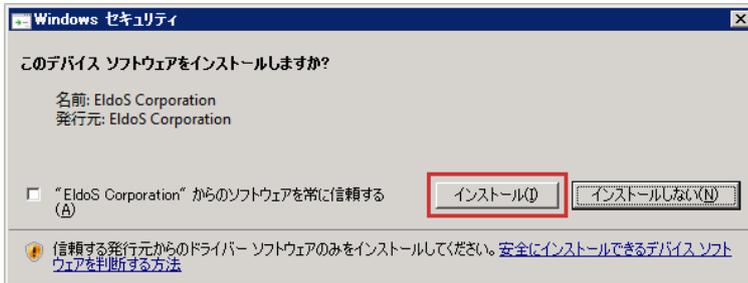


⚠️ ご注意

途中、コマンドプロンプト画面が表示されますが、自動的に終了しますので特に操作は行わないでください。

手順解説

⑫ インストール途中で以下のようなダイアログが表示された場合は [インストール] ボタンをクリックします。



⚠️ ご注意
VVAULT を利用する為に必要なソフトウェアです。再インストールの際には表示されない場合があります。

⑬ 各種設定状況が表示されるので [次へ] ボタンをクリックします。



⑭ [完了] ボタンをクリックするとインストールが完了します。



⚠️ ご注意
本製品の起動には各種システムサービスの起動が必要となります。インストールの完了後は必ずコンピュータを再起動してください。

2-2

製品アップデートの手順

本製品をアップデートするには、製品サイトから最新版のインストーラーをダウンロードし、実行してください。
本製品のダウンロードについての詳しい方法は「1-2 VVAULTのダウンロード(P.7)」をご覧ください。

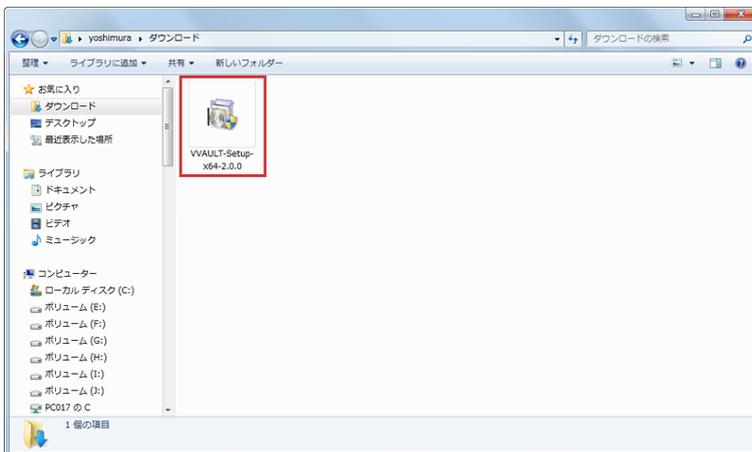


ご注意

本製品ではバージョンのダウングレードには対応しておりません。

手順解説

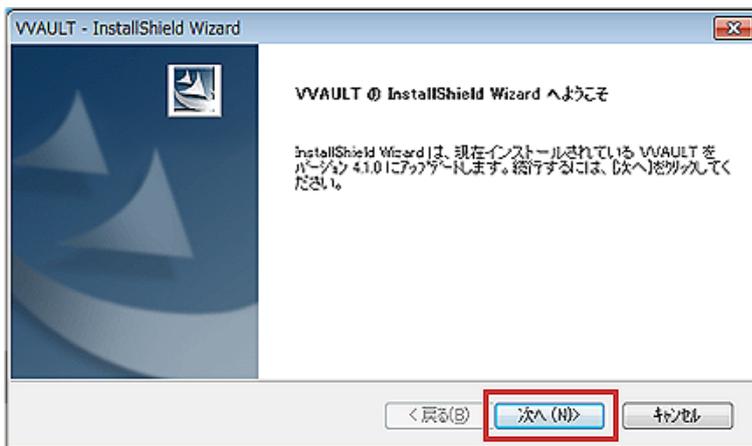
① 本製品の最新版のインストーラーを実行します。



ワンポイント

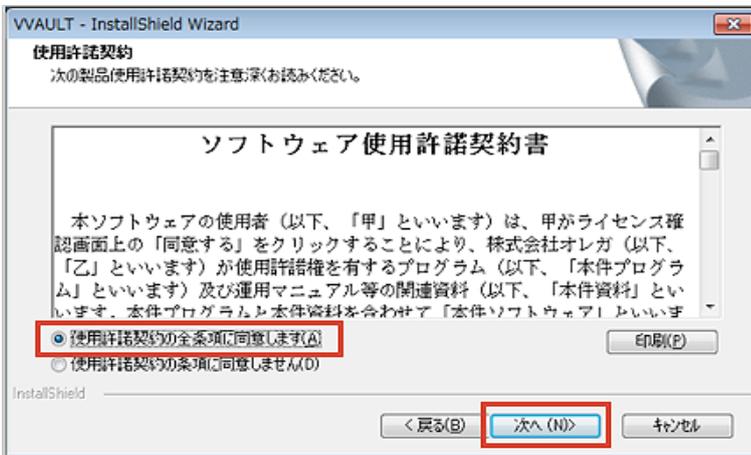
ドメインメンバーのコンピューターにインストールする場合は、ローカルの管理者アカウントでログインしてから実行してください。

② 既にVVAULTがインストールされている場合、自動的にアップデートウィザードに切り替わりますので、「次へ」ボタンをクリックします。



手順解説

- ③ 使用許諾契約を確認後、[使用許諾契約の全条項に同意します (A)] を選択し [次へ] ボタンをクリックします。



- ④ インストールが開始されます。



- ⑤ [完了] ボタンをクリックするとインストールが完了します。



⚠️ ご注意

アップデート後は各種システムサービスの再起動が必要となる場合があります。左の画面が表示された場合は必ずコンピュータを再起動してください。また、アップデート後に管理コンソールが正常に動作しない場合、ブラウザのキャッシュをクリアしてください。

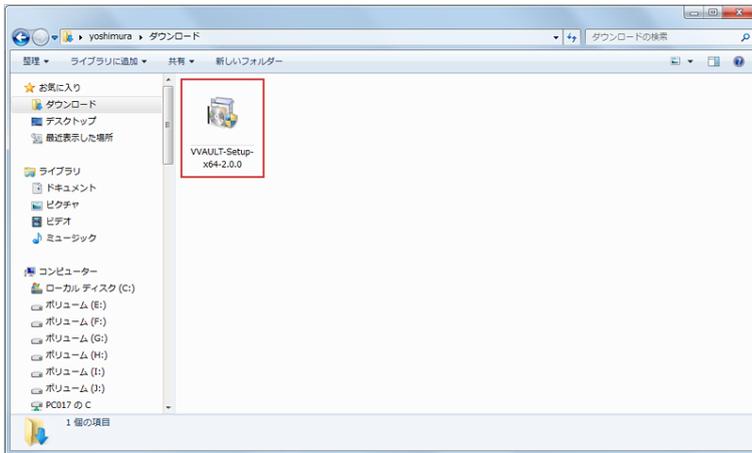
2-3

機能の追加インストールの手順

本製品を新規インストールした際に無効とした機能を有効化するには、以下の手順に従って [追加インストール] を行ってください。

手順解説

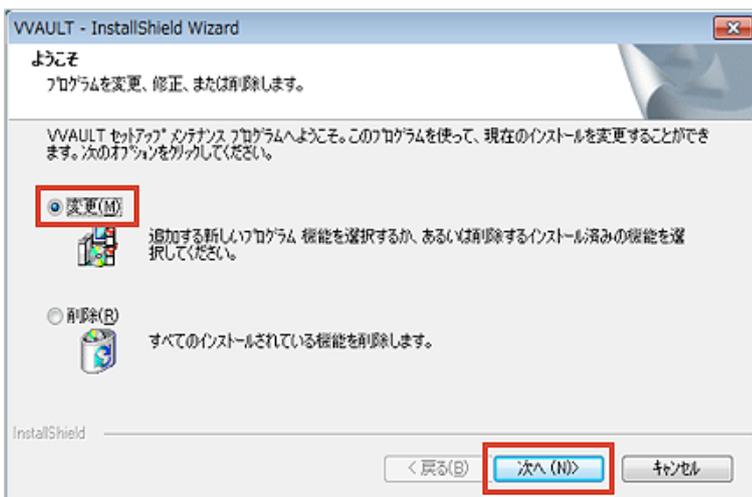
- ① インストールされている VVAULT と同じバージョンのインストーラーを実行します。



ワンポイント

インストールに使用したインストーラーが無い場合は、コントロールパネルの [プログラムと機能] から VVAULT を選択し [変更] を実行することでも起動することができます。尚 [プログラムと機能] と同等の機能は OS によって名称や操作が異なります。

- ② 以下の画面が表示されますので、[変更] を選択し [次へ] ボタンをクリックします。



手順解説

③ 追加する機能を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



以降の手順は「2-1 新規インストールの手順 (P.14)」の手順⑤以降と同様となりますので、そちらをご覧ください。

2-4

復元インストールの手順

復元インストールを行うことで、本製品をアンインストールする前の状態に戻すことができます。

※ 9.1.1バージョンから同一バージョンの制約はなくなり、最新のインストーラーで復元インストールが可能になりました。

※ PGBのバックアップDBから復元インストールする手順は、「PGB 設定マニュアル」(<https://vvault.jp/document/manual.html>)を参照して下さい。

※ 復元インストール後は以下の操作を再度行う必要があります。

- ・ レポートメールの設定およびアクティブディレクトリー設定

レポートメールの設定およびアクティブディレクトリー設定を引き継ぐ場合はVVAULTインストール先¥Mail.confを保存しておき、復元インストール後にファイルを置き換えてください。その後、VVAULT9Instance1Serviceを再起動してください。

- ・ ライセンスの再登録

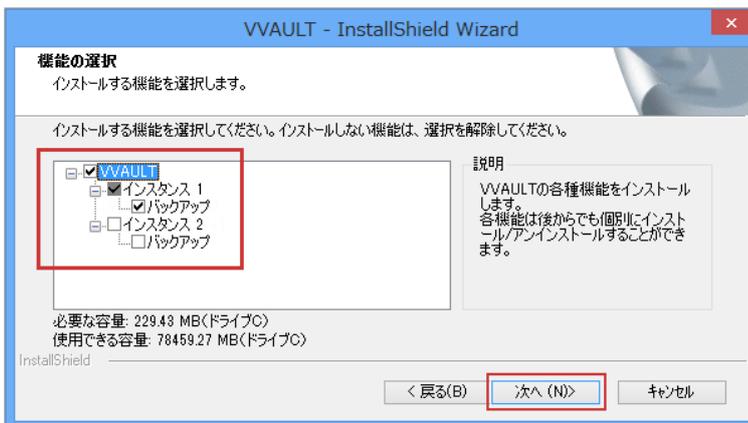
詳しくは「システム設定マニュアル」 「1-1 ライセンスについて (P.6)」を参照してください。

- ・ レプリカモードのサーバー証明書の再インストール

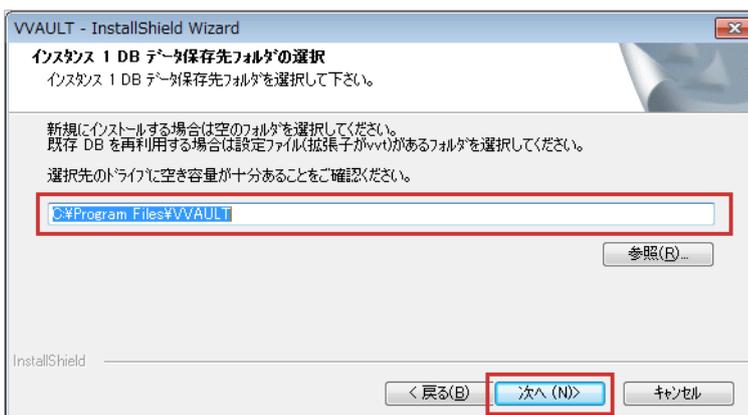
詳しくは「バックアップ復元マニュアル」 「2-3 レプリカモードの起動 (スタンバイサーバー) (P.39)」を参照してください。

手順解説

① 「2-1 新規インストールの手順 (P.14)」を参考にインストーラを実行し [機能の選択] で元の状態と同様の機能を選択し [次へ] ボタンをクリックします。



② [仮想ドライブDBデータ保存先フォルダの選択] で、既存のDBデータの保存先を選択します。



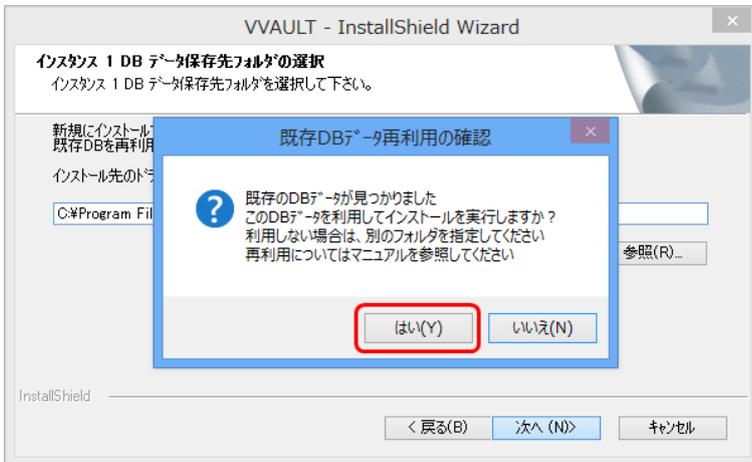
⚠️ ご注意

復元インストール時にDBデータ保存先フォルダと同階層にある [backup_conf]がない場合はエラーになり復元できませんのでご注意ください。

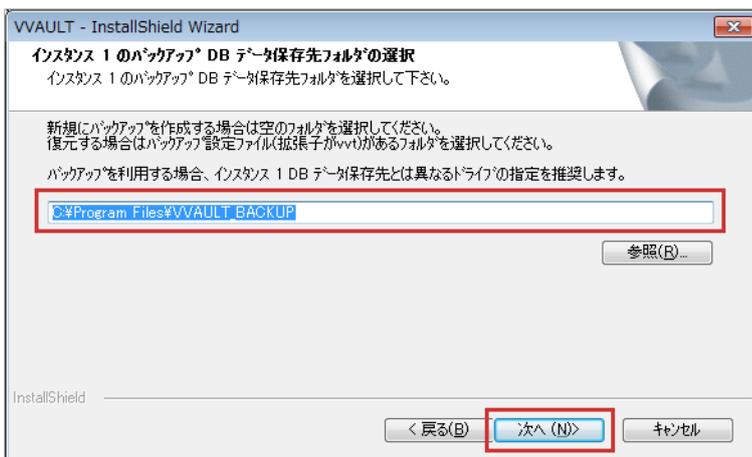
DBデータの保存先については「1-3 使用するデータの保存先 (P.8)」を参照してください。

手順解説

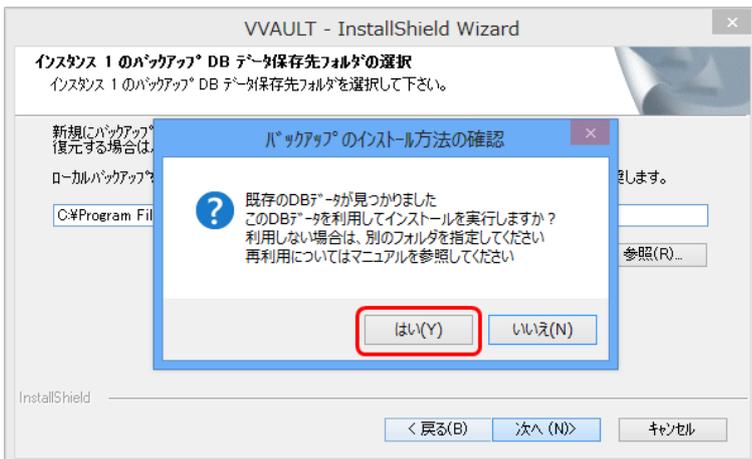
- ③ [既存 DB データ再利用の確認] ダイアログが表示されますので、[はい (Y)] ボタンをクリックします。



- ④ [バックアップ用 DB データ保存先フォルダの選択] で、既存の DB のパスを選択します。



- ⑤ [既存 DB データ再利用の確認] ダイアログが表示されますので、[はい (Y)] ボタンをクリックします。



手順解説



⑥ [インストール準備の完了]にて [インストール] ボタンをクリックします。



3 管理コンソールへのアクセス

Install Manual for VVAULT 9.5

3-1 管理コンソールの起動	28
3-2 有効なアカウント名の確認	30
3-3 ログインとログアウト	31

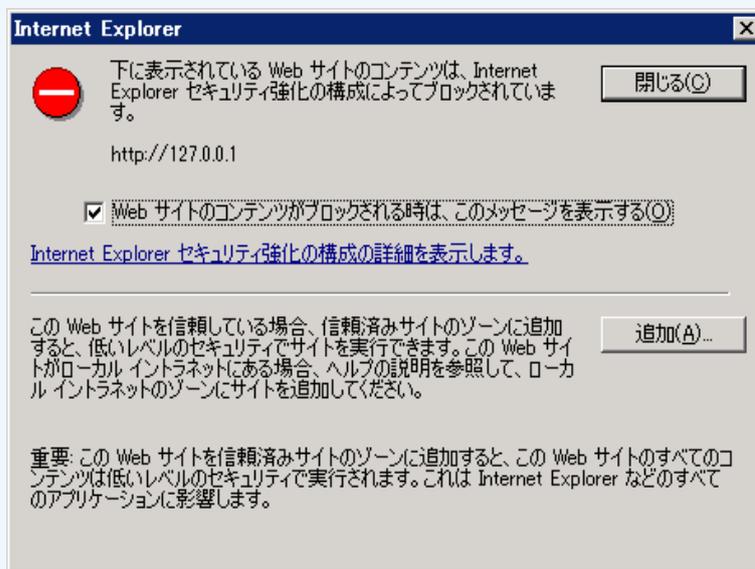
3-1

管理コンソールの起動

本製品の管理コンソールを起動するには以下の手順に従ってください。

🔍 ブラウザの設定について

VVAULTの管理コンソールにアクセスした際、以下の画面が表示される場合があります。その場合は、ダイアログ内の[追加]ボタンより当管理コンソールを [信頼済みサイト] に追加してください。また、予め追加しておく場合は、[コントロールパネル]の [インターネットオプション] より [インターネットのプロパティ] を表示し、[セキュリティ] タブの [信頼済みサイト] に下記のアドレスを追加してください。



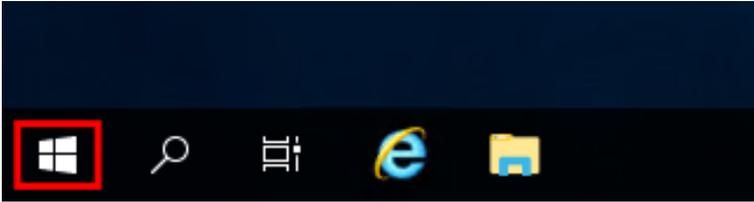
登録が必要なアドレス

<http://127.0.0.1>

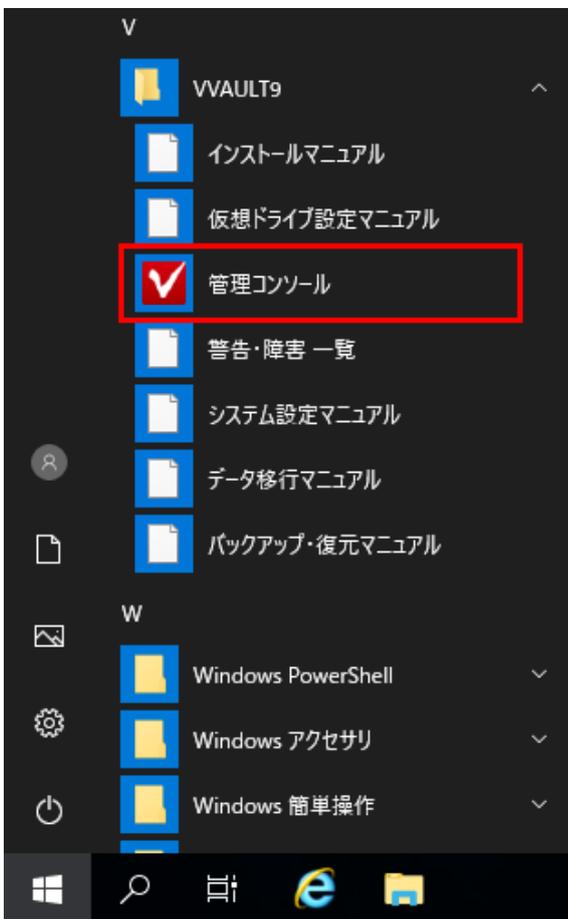
<about:blank>

手順解説

① [スタートメニュー] をクリックします。



② [VVAULT9] を開き、[管理コンソール] をクリックすると、Web ブラウザが起動し、管理コンソールが表示されます。



ワンポイント

管理コンソールが表示されない場合は、本製品の起動に必要なサービスが停止している可能性があります。[コントロールパネル]の[管理コンソール]より[サービス]を起動して、[VVAULT9 Web Console Service (Tomcat9)]が開始されているかご確認ください。

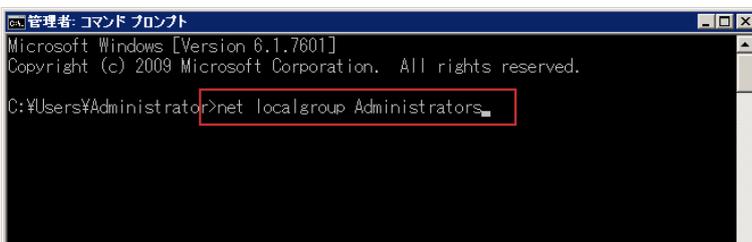
3-2

有効なアカウント名の確認

本製品の管理コンソールにログインするには、OSに登録されている管理者のアカウント名、およびパスワードが必要となります。ただし、実際のアカウント名と表示されている名称が異なる場合がありますので、以下の手順に従い、管理者の実際のアカウント名をご確認ください。

手順解説

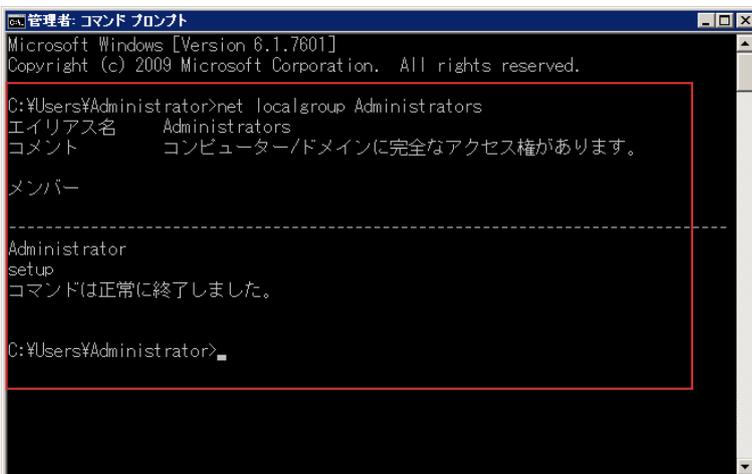
- ① [コマンドプロンプト]にて、[net localgroup Administrators]と入力し、実行します。



```
管理: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>net localgroup Administrators
```

- ② 管理者アカウントの一覧が表示されますので確認します。この例では [Administrator] が実際のアカウント名となります。



```
管理: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>net localgroup Administrators
エイリアス名      Administrators
コメント          コンピューター/ドメインに完全なアクセス権があります。

メンバー
-----
Administrator
setup
コマンドは正常に終了しました。

C:\Users\Administrator>
```

ワンポイント

漢字名称の場合でもアカウント名として使用可能です。また、パスワードを設定していない場合は空白のままとしてください。

3-3

ログインとログアウト

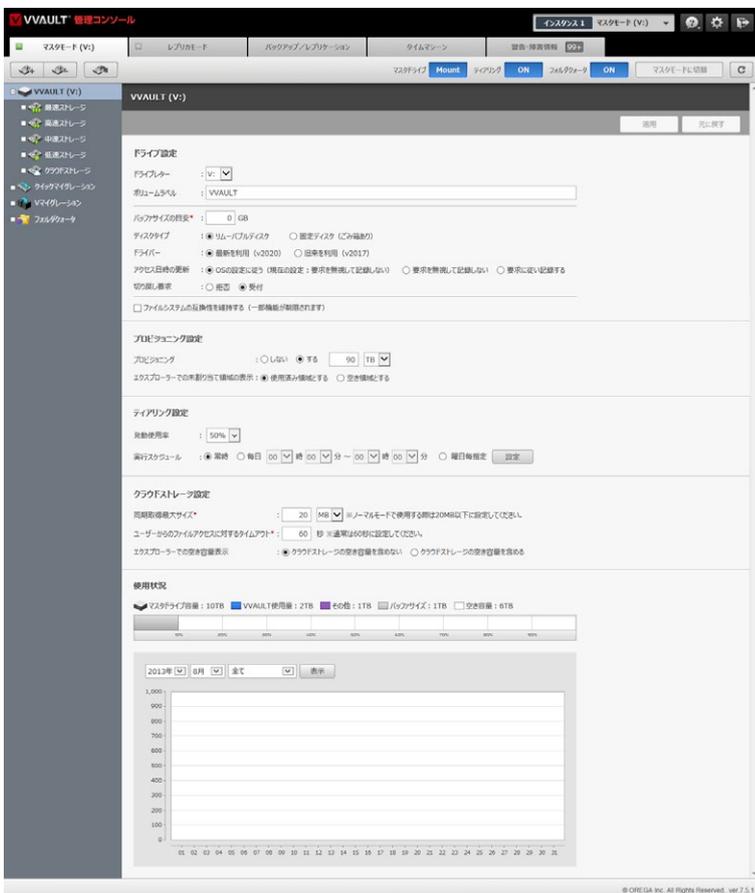
本製品の管理コンソールにログインするには、以下の手順に従ってください。尚、ログイン画面へのアクセス方法は「[3-1 管理コンソールの起動 \(P.28\)](#)」を、ログインに失敗する場合は「[3-2 有効なアカウント名の確認 \(P.30\)](#)」をご覧ください。

ログインの手順

- ① コンピューターの管理者権限を持つアカウント名とパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。



- ② 以下の画面に切り替わり、ログインが完了します。



ログアウトの手順

① 管理コンソールの右上端にある [ログアウト] ボタンをクリックします。



② 以下の画面に切り替わり、ログアウトが完了します。



4 画面の構成

Install Manual for VVAULT 9.5

4-1 基本構成と各部の役割 ————— 34

4-1

基本構成と各部の役割

本製品では、どの画面でも迷うことなく操作できるよう、全ての画面で以下のレイアウトを基本として構成しています。ここでは例として [マスタモード設定] 画面を使用して説明します。

1 VVAULT 管理コンソール

インスタンス 1 マスタモード (V:)

マスタモード (V:) レプリカモード バックアップ/レプリケーション TMS タイムマシーン 警告・障害情報 0

マスタドライブ Mount ティアリング ON フォルダクォータ ON マスタモードに切替

2 警告・障害情報 0

VVAULT (V:)

3 ① ペアリング先からの応答がない為、同期処理を続行できません。
② 仮想ドライブ (V:) が起動している為、バックアップサーバー機能は停止しています。
③ レプリケーション実行中... 53% 完了

適用 元に戻す **4**

5 VVAULT (V:)

- ⑥ 最速ストレージ
 - STORAGE A
 - STORAGE B
 - STORAGE C
- 高速ストレージ
- 中速ストレージ
- 低速ストレージ
- クラウドストレージ
- CLOUD STORAGE
- クイックマイグレーション
- Vマイグレーション
- フォルダクォータ

6 ドライブ設定

ドライブレター : V: ▼

ボリュームラベル : VVAULT

バッファサイズの目安* : 0 GB

ディスクタイプ : リムーバブルディスク 固定ディスク (ごみ箱あり)

ドライバー : 最新を利用 (v2020) 旧来を利用 (v2017)

アクセス日時を更新 : OSの設定に従う (現在の設定: 要求を無視して記録しない) 要求を無視して記録しない 要求に従い記録する

切り戻し要求 : 拒否 受付

ファイルシステムの互換性を維持する (一部機能が制限されます)

6 プロテクトジョブ設定

プロテクトジョブ : しない する 90 TB ▼

エクスポージャーでの未割り当て領域の表示 : 使用済み領域とする 空き領域とする

ティアリング設定

起動使用率 : 50% ▼

実行スケジュール : 常時 毎日 00 時 00 分 ~ 00 時 00 分 曜日毎指定 設定

クラウドストレージ設定

同期取得最大サイズ* : 20 MB ▼ ※ノーマルモードで使用する際は20MB以下に設定してください。

ユーザーからのファイルアクセスに対するタイムアウト* : 60 秒 ※通常は60秒に設定してください。

エクスポージャーでの空き容量表示 : クラウドストレージの空き容量を含めない クラウドストレージの空き容量を含める

使用状況

マスタドライブ容量: 10TB VVAULT使用量: 2TB その他: 1TB バッファサイズ: 1TB 空き容量: 6TB

2013年 8月 全て 表示

日	使用量 (TB)
01	400
02	500
03	450
04	400
05	450
06	500
07	550
08	600
09	500
10	450
11	400
12	450
13	500
14	400
15	450
16	500
17	500
18	450
19	350
20	400
21	400
22	400
23	400
24	400
25	400
26	400
27	400
28	400
29	400
30	400
31	400

7 © OREGA Inc. All Rights Reserved. ver 9.0.0

名称と役割

① ヘッダー

製品ロゴマーク/インスタンス切り替えボックス/当マニュアルリンク/システムボタン/ログアウトボタンを表示します。

② アプリケーションタブ

使用可能な各機能へのナビゲーションを表示します。

③ インフォメーション

警告・障害・進捗など、発生している状況についてのメッセージを表示します。

④ ツールバー

各機能の稼働や停止など、機能ごとに共通の操作メニューを表示します。

⑤ ツリーナビゲーション

各設定画面へのナビゲーションを表示します。

⑥ メインエリア

各機能ごとに主だった情報や設定内容を表示・操作するエリアです。

⑦ フッター

バックグラウンド処理のインジケータや製品バージョンなどの補足情報を表示します。

5 アンインストール

Install Manual for VVAULT 9.5

5-1 アンインストールの手順 38

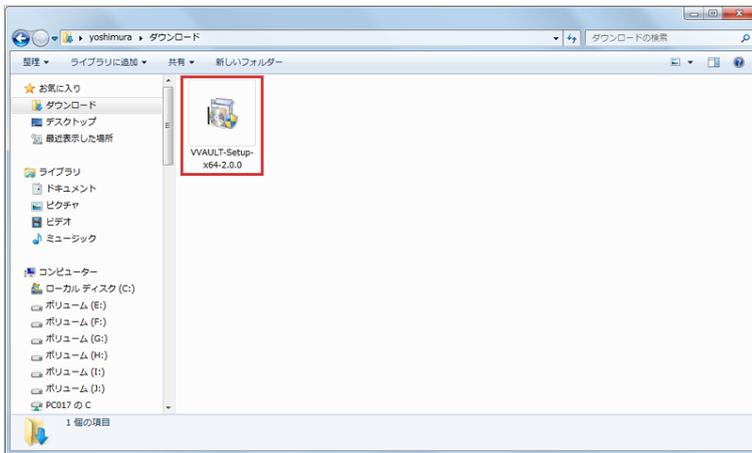
5-1

アンインストールの手順

本製品をアンインストールするには、以下の手順に従ってください。尚、アンインストールを実行する前に、マスタドライブ/レプリカドライブに保存されているデータを別の場所へ移動しておくことを推奨します。

手順解説

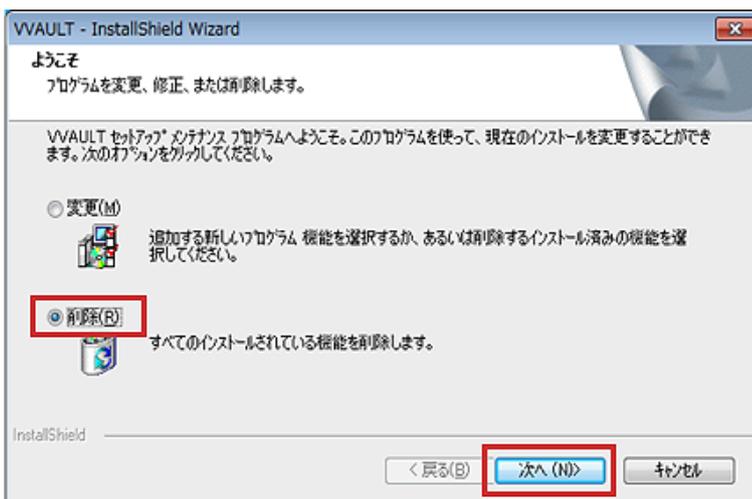
- ① インストールされているVVAULTと同じバージョンのインストーラーを実行します。



ワンポイント

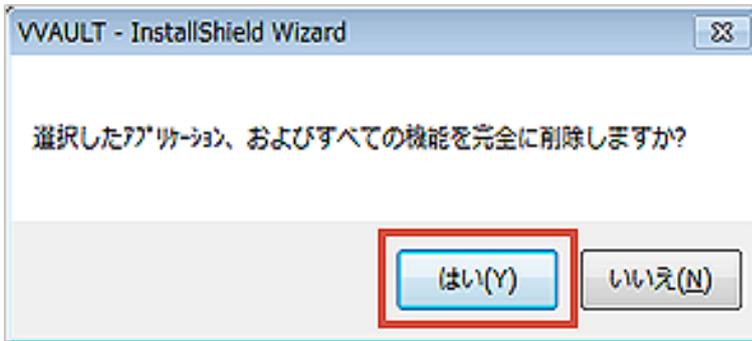
インストールに使用したインストーラーが無い場合は、コントロールパネルの [プログラムと機能] からVVAULTを選択し [変更] を実行することでも起動することができます。尚 [プログラムと機能] と同等の機能はOSによって名称や操作が異なります。

- ② 以下の画面が表示されますので、[削除] を選択し [次へ] をクリックします。



手順解説

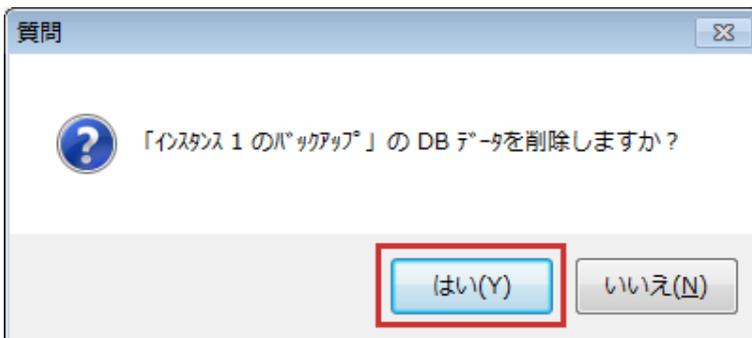
③ 以下のダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックします。



④ アンインストールが開始されます。



⑤ インスタンス1のバックアップを使用していた場合、途中で以下のダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。



⚠️ ご注意

復元インストールを行う予定がある場合は、DBデータが必要になりますので削除しないでください。

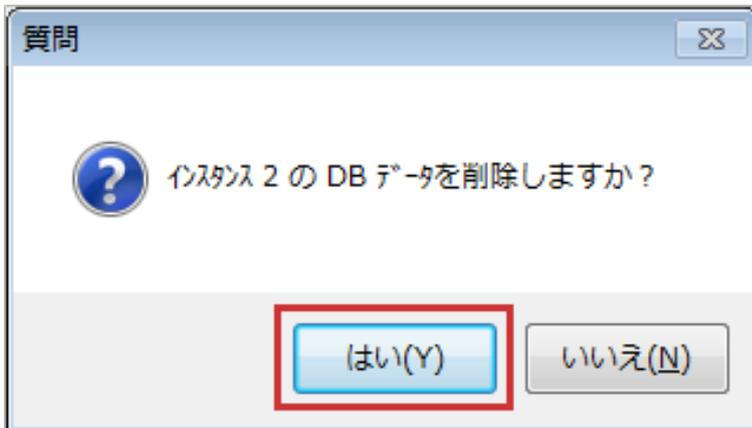
手順解説

⑥ インスタンス2のバックアップを使用していた場合、途中で以下のダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。

**⚠️ ご注意**

復元インストールを行う予定がある場合は、DBデータが必要になりますので削除しないでください。

⑦ インスタンス 2 を使用していた場合、途中で以下のダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。

**⚠️ ご注意**

復元インストールを行う予定がある場合は、DBデータが必要になりますので削除しないでください。

⑧ 途中、以下のダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしてください。



